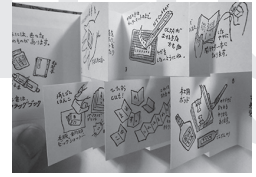


## 豆本を楽しむ

田中 葵 Tanaka Shiori



幼い頃から本が好きでしたが、小学生だった昭和40年代、住んでいた横浜の公団住宅の近くに書店も図書館ありませんでした。私は広告の紙を小さく切って裏面にマンガや小説を手描きし、豆雑誌のようなものを作りました。不定期に発行を重ね、それはいつしか、クラスメートの間で回覧されるようになりました。

あれから40年余。パソコンが普及して、個人でも本格的な印刷物や本を作れる時代が到来しました。本作りには、執筆、編集、校閲、デザイン、製本など多くのスキルが必要ですが、本当に大切なのは内容と個性、そしてその表現方法です。私自身、長らく手製本の教室に通いましたが、自分だけの本を手作りする人は存外多いのです。なかでも小さな本（豆本）を作る人たちは、今、30～50代の女性を中心に、パワフルな活動をしています。

私は、オリジナルの豆本作品を展示販売するイベント「豆本フェスタ」を何度か主催したことで、こうした人たちとの交流が増え、2011年には日本豆本協会を設立しました。

この年、初めての交流茶話会「豆本のつどい」を横浜で開き、数十名の豆本好きが集まりました。自慢のお宝豆本コレクションを持参する愛好家、2cm角の小さなハードカバー豆本を作る女性作家、自作の編みぐるみのキャラクターを主人公にして撮影し、抱腹絶倒の写真豆絵本を刊行する作家、豆本を製本するのに役立つ便利な道具を、100円ショップの商品を工夫して編み出す達人…。

さまざまな豆本好きが出席しましたが、なかでもこの日、最も注目を集めたのは、手のひらに乗るサイズのピアノを手づくりしてきた方です。それは木をカットし組み立ててヤスリで磨き、黒い合成漆を

塗って、ちゃんと蓋が開け閉めできるアップライト・ピアノでした。実は、鍵盤を引き出すと、これが豆本になっているのです。

音楽好きの友人の誕生日プレゼントとして作ったもので、販売品ではない、と本人は話すのですが、実物を見た人たちはみな買いたがり、「作って欲しい」とリクエストが殺到しました。

彼女は平日、会社員として働いていますが、以来、休日は小さなピアノを作る豆本作家になりました。その後、豆本イベントに出展参加すると、お客さんのリクエストに応じて、革張りの座面が回転する豆椅子が追加され、白いピアノができ、そして豪華なグランドピアノまで手作りすることに…。

機械生産でない「もの作り」は、造形も素材も、そして進化の度合いも自由自在です。少数の手づくりだからこそできる、豊かなアイデアと創意工夫には、驚かされるばかり。大量生産の出版物やパソコンの画面で見るバーチャルな本とは違う楽しさがたくさんあって新鮮です。

こうした作品は、作家のサイトや豆本販売イベントで販売されています。今年4月には豆本書店というリアル書店も開店（三省堂書店神保町本店・神保町いちのいち内）、手づくり少数とは言いながら、流通販売の展開も活発です。

本は読む楽しみだけでなく作る楽しみもあり、そして更に売ること、読者と交流する新しい世界も開けます。目下の私の喜びは、こうした楽しいことを、たくさんの人たちに知ってもらうことです。

### たなか しおり

日本豆本協会会長、日本出版学会会員、東京製本倶楽部会員。横浜市出身。出版社勤務の後、フリーに。豆本イベントを主催し、自宅や全国各地で豆本・製本ワークショップ講師を務める。著書に「古本屋の女房」（平凡社）、『書肆ユリイカの本』（青土社）、『田中葵の豆本教室』（マイナビ、近刊予定）がある。